

Volume.045



徳山大学校友会誌

とくだい

発行所
徳山大学校友会

〒745-8506
山口県徳山市徳山 徳山大学内
TEL: 0834-2817454

発行日
令和3年3月25日

発行責任者 國廣 憲

編集責任者 藤井 辰郎



徳山大学は、もともと丘陵を造成した場所で、その起伏をうまく利用して学内の各施設も配置されています。瀬戸内海に沈む秋の夕日は特に美しいです。いよいよ来年度は創立 50 周年を迎えます。新たな変化と共に、変わらぬ自然豊かなキャンパスは本学の魅力でもあります。秋には 50 周年記念式典と共に、ホームカミングデイの開催も予定されています。この 1 年はコロナの影響で何事においても中止、縮小、自粛でありましたが、今後少しでも状況が改善され、徳山大学の豊かで活発な活動が展開されることを祈るばかりです。

令和2年度評議員会開催中止される

令和2年度評議員会は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、会議自体は中止とされました。これは校友会としても初めての事態でありましたが、全国的な状況から勘案して苦渋の決断となりました。会議内容は、議事を評議員に送付して、書面表決という形で審議いただいたという形になりました。1年に1度顔を合わせて旧交を温め、大学の新たな情報を聞く場としても貴重な会議であります。致し方ないという判断によりこのような形となりました。議案であった、令和元年度事業報告、令和元年度決算報告、令和2年度活動方針及び事業計画、令和2年度予算について、評議員の皆様賛成の表決をいただいたことをご報告します。

第1回ホームカミングデイ開催される

大学祭は、毎年「ボプラ祭」として大学祭を開催し、2日間の開催が続けてきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で例年とは異なり「フェスタ徳大」として1日のみの開催となりました。大学祭では模擬講義や地域の方のご協力で、周南グルメ弁当配布や湯野温泉の足湯体験など、今までと一味違った企画が行われ、それでも例年以上の方に参加いただいたということで、教職員・学生、地域の皆様と一体となって開催した意義が深まりました。

このような中、校友会では、大学のご好意もあり、「ホームカミングデイ」を企画開催しました。ホームカミングデイとは、卒

業生の方が旧交を温めるだけの場でなく、地域の皆さんや、在学生の皆さんとのふれあいを楽しんでもらえるように行われるものです。

今回の内容として、講演会では、「草創期の徳山大学」と題して徳山大学名誉教授の佐原昌弘先生にご講演いただきました。

また、その後、「懐かしの徳大」では、大学風景をスライドショーで紹介、「卒業生による徳山大学への思い」では、野村哲也さん（経済・20期卒）天満恭平さん（福祉情報・45期卒）がそれぞれ、学生時代の思い出と今の自分の繋がりについて語ってくれました。

最後には参加者全員対象のふるさと産品抽選会を行い、終了しました。来年の大学祭では、さらにスケールアップした内容で開催の予定です。内容はホームページでお知らせいたします。コロナが少しでも収束することを願うばかりです。



講演される佐原先生



会場 301教室

とくだいインフォメーション

「地域に輝く大学」に
ー公立化構想についてー

現在徳山大学では魅力ある大学づくりを目指して、大規模な改組とともに公立化を構想中です。実現すれば公設民営大学からさらに一歩踏み出し、教育や研究、地域貢献などに、より多くのソースを割くことが可能となります。将来の改組案としては、地域の健康と命を守る看護学科を含む人間健康学部や地域の企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)を支える情報科学部など構想しています。

一連の大学改革と同時に地域連携や産業連携をさらに充実させることで、地域の課題を解決し、地域に信頼され「地域に輝く大学」を目指します。母校徳山大学は周南市の行政、企業、団体、住民の皆様との協働のもとに、地域の持続的発展と価値創造の「成長エンジン」になるという使命を果たしていくことの実現に向い、全学で取り組んでいるところです。

サンフレッチェ広島へ入団！

今年秋から日本女子フットサルリーグが誕生します。その中のチームのひとつである、サンフレッチェ広島レジーナへ本学の塩田満彩さん(経済学部ビジネス戦略学科4年)が入団内定しました。

塩田さんのポジションはミッドフィルダーで、学生時代は、全日本女子サッカー選手権出場や、ユニバーシアード日本代表候補や全日本大学女子サッカーに選抜されるなど、優秀な成績をおさめました。

サンフレッチェ広島を希望したことについて「出身地が岡山県で、徳山大学で育てていただいたこともあり、中国地区のチームで活躍できるかという思い、それが実り嬉しい気持ちです」と話してくれました。今後の塩田さんの活躍を期待したいと思います。



Jリーグクラブへ入団内定！



山本駿亮さん(経済学部ビジネス戦略学科4年)が鹿児島ユナイテッドFCへ入団内定しました。ポジションはフォワードです。山本さんは、中国リーグで得点王をとった実績もあり、本人も子供のころからの夢のプロ選手として、高い希望に燃えているところです。

ピアサポートセンター設置される

図書館の3階に「ピアサポートセンター」が開設されました。ここは、学生同士が学びあったり、くつろいだりしながら自由に活動ができる空間です。日本人同士、あるいは留学生ともお互いに学びあう場所です。

今後一層の活用が期待されます。



令和2年度退職教職員からのメッセージ

**なかはら かぜ先生**（平成17年4月1日～令和3年3月31日・定年退職）

2004年に非常勤講師として1年間、サブカルチャーについて2科目ほど担当させていただき、2005年より教授として新設された「知財開発コース」にて、漫画やイラストレーションの歴史と実習を8科目を受け持っていました。当時の学長や学部長のお話を聞かせていただいた時に、日本のサブカルチャーが今や世界に破壊力を持つ経済の要であることや、創造的発想を育てることが豊かな人間力へ繋がっているという説明に感動をいたしました。大学は画一的な人材ではなく、これからの日本を牽引する豊かな人間性を兼ね備えた学生を育てる場であると信じて教壇に立ち、今日までその一助となれたことを嬉しく思っています。

※4月より徳山大学で特任教授として着任されます。

**紙矢 健治先生**（平成22年10月1日～令和3年2月4日・依願退職）

みなさんは法務省の大臣官房にいる徳大生をご存知か？私は公安委員会の警察署協議会と法務省矯正局通訳人をさせていただいた。思いは一つ、徳山大学の卒業生を一人でも多くの警察や法務省所管の部署に就職させたいという思いで、まあリクルーターの役割のつもりでそれらをさせていただいていた。今日も愛媛県警に就職が決まったと知らせてくれた卒業生が連絡をくれた。徳山大学には、北は北海道から南は沖縄から学生が来ている。そのうえで周辺に就職する学生がいるのだから、徳大は地域の宝であり、クラブ学生はまさに輝く宝石の原石である。運動系クラブは、授業以外のほとんどの時間をそれぞれの競技を通じて人間性を高める精進をしている。それは寒い時も暑い時も人が休んでいる時でさえ自分を磨いている。その上で授業にも出ている。世の中で認められるということは、そういう本来の仕事を含めて、寒い時も暑い時も人が休んでいる時も人が見えない時も日々過ごしてきたという実績と前向きな姿勢を持っているかどうかということだ。コーチや監督の愛情表現の「檄」を毎日のように受けて、それでも心を太くし、自分の柱を太くする。それは卒業して時間がたつほど価値がますます、仕事の場での自分の信用ともなる。運動系クラブ学生は、監督や部長がいて成り立つ。監督や部長や部員も、それをやらなくても楽しもうと思えば楽しめる。しかし、それをしてきたからこそ、警察では数多くの警部や警視を輩出し、法務省では刑務官だけでなく、内閣官房で働くOBが出たのではないだろうか。徳大を支え、それら県内外から来てくれたバラエティに富んだ魅力ある志ある若き青年たちに、50年分の感謝と今後へのエールを送りたい。

諸君はよくやった！

**宮脇 敏哉先生**（平成29年4月1日～令和3年3月31日・定年退職）

大好きな徳山大学を離れるのは、寂しいです。本学は元気な学生が多く、また各スポーツが強く、楽しい日々でした。特に部長をさせていただきました硬式野球部、空手道部の皆さんありがとうございました。

今後は、インドネシアの大学と、国内の大学でSDGsを教育することになりました。徳山大学関係各位、卒業生の皆様に感謝申し上げます。

**山岡 幸子先生**（平成21年4月1日～令和3年3月31日・定年退職）

皆様、在職中は様々な方にお世話になりまして、心より感謝申し上げます。また、今後の徳山大学のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。どうもありがとうございました。

※4月より徳山大学で特任講師として着任されます。

**柴村 太さん**（昭和59年4月1日～令和3年3月31日・定年退職）

昭和59年に徳山大学に入職以来、其々の部署で経験させて頂きましたが、その中でも学生指導に時間を費やしたことは私の成長の糧となっています。

課外活動においては、野球部に在籍し、コーチ（5年）、監督（22年）、総監督（7年）を務めましたが、特に監督として全国大会に14回出場（ベスト8 3回）したことや、数百名のOB、OGと喜怒哀楽を共に共有できたこと、仕事やクラブ関係を通じて多くの方と出会えたことは私にとって何よりも財産です。

このたび定年を迎えるにあたりお会い出来ました教職員をはじめ、OB、OGの方、これまで支えて頂いた皆様に感謝すると共に徳山大学の今後の発展を祈念致します。

本当にありがとうございました。

**岡本 直也さん**（平成30年4月1日～令和3年3月31日・依願退職）

徳山大学で成長した私。2018年4月から3年間、大学教職員、大学関係者の皆様、地域の皆様の温かいお力添えがあったからこそ私らしく過ごすことが出来ました。感謝申し上げます。日々「大きい耳、優しい目、小さい口」をモットーに新たな取り組みを実施しましたが、今後はより一層

新企画を外部団体として連携を図ることで徳山大学の広報に繋がればと考えています。

最後に1番大切・大好きな家族に「ありがとう」と伝えると共に、徳山大学のご発展と皆様のさらなるご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



懐かしのキャンパス

—あのとそこ—to自分の青春があった—
—学生生活— 90年代前半編



大学祭アピール市中パレード

出発地点の代々木公園当時は職員も参加しました。
写真右は当時の徳山市内メイン通り銀商街のパレードの様子です。



萩往還強歩大会

大学祭期間を利用して、恒例行事で、山口から萩までの萩往還（街道）を教職員・学生で歩きました。（約35*）



卒業式

盛大に胴上げなども行われていました。



寒 行

光市虹が浜で冬の極寒の日を実施されていました。



村瀬秀輝さんご逝去について

村瀬秀輝さん（9期・経済学部卒）が
令和2年5月7日急逝されました。

村瀬さんは昭和58年本学卒業と同時に、徳山大学へ奉職されました。大学では様々な部署で中心的な役割を果たされ、特に平成12年からはじまった留学生に関する業務に関しては、大きな礎を築かれました。校友会でも、事務局、評議員としてご活躍され、大学では理事・法人本部長という重責を担われていました。誰に対しても公平に丁寧に対応され、大変人望の厚い方でした。本当に残念な思いでいっぱいです。

村瀬様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



おたよりコーナー ～校友会にお寄せいただいたお便りをご紹介します～ ありがとうございます

6期 防府市在住 平元 正紀さん

卒業以来なかなか大学へは行く機会がありませんが、当時の部活仲間である放送部のメンバーを集めて、少人数ではありますが、同窓会をおこなっています。今年は、コロナウィルスの影響で開催がどうなるかわかりませんが、メンバーが集まってくれる限り活動を続けていくつもりです。校友会の皆さんも頑張ってください！



21期 広島県在住 瀬本 圭宏さん

毎号拝見するたびに、徳山で過ごしたあの日々を思い出し愛おしく感じます。そして現在でも学友と会う度に、楽しかった学生生活の話でもりあがってしまいます。現在通う学生達にも、あの頃の私達の様に生き生きとした毎日であってほしいと願っています。

34期 光市在住 藤田 明史さん

卒業して四半世紀、広島という近くにいながなかなか母校に行くこともできていませんが、いつも楽しみに校友会誌が届くのを待っています。懐かしい記事から最新の状況まで把握できて感謝しています。またいつか学食で鳥ライス食べてみたいです。（笑）

（プレゼントコーナー）～山口県名産品～

① 澄川酒造（萩）

東洋美人純米吟醸大辛口
今や山口県を代表するお酒のひとつです。



② 山縣本店（周南）

焼酎2本セット（米・芋）
おなじみ周南市徳山の地元焼酎です。



③ 杉本利兵衛本店（防府）

金銀竹輪セット
お酒にも合う食感が独特で人気のある竹輪です。



希望商品、氏名、年齢、住所、電話番号、会誌へのご意見・ご感想をお書き添えの上、

郵送の場合

〒745-8566
山口県周南市学園台 徳山大学校友会

ホームページの場合

kouyukai@hokuryusama-u.ac.jp
ご送付ください。

※ご意見・ご感想は、誌上・HP上で掲載されることがありますので、予めご了承ください。
また、個人情報については、事務局のみに使用させていただきます。

編集後記・お礼

卒業生の皆様からお送りいただくお便りが、制作の励みとなります。

次年度の大学創立50周年は盛大にお祝いしたいものです。

50周年に向けてプレゼントも少し弾みました。どうぞ、多くのメッセージとともにお送りください。
（中村 道隆）

編集スタッフ

企画広報部長 藤井辰郎（25期）
中村道隆（11期） 藤田美恵（事務局）
印刷・デザイン：東洋印刷 協力：徳山大学